

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

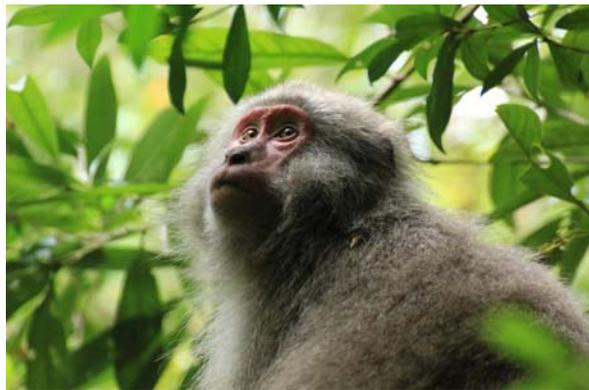
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 6 月 15 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	査間領

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
鹿児島県 屋久島 野生動物研究センター 屋久島観察所
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
屋久島フィールド科学実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 26 年 5 月 18 日 ~ 平成 26 年 5 月 26 日 (8 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
野生動物研究センター屋久島観察所
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<p>5/18 から 5/26 日まで、PWS の主催で屋久島でのフィールドワーク実習に行ってきた。当実習は、京都大学が古くから野生のニホンザル(ヤクザル)の野外調査を行ってきた屋久島にて、フィールドワークの基礎を学ぶための実習である。4 班の内、自分はサル班を選択し、サルの採食行動の観察や、ゲノム実習のための糞サンプリングを行った。調査は 5/20 から 5/24 までの 4 日間行った。具体的な内容としては、ある 1 個体を選び、採食行動のアドリブサンプリング、1 分スキャンサンプリング、糞採集を分担して同時に行った。また、後の個体識別に利用するために個体の顔写真を撮った。それぞれの結果の解析は宿泊所で手分けして行った。具体的な内容はグループレポートに記述してあるのでこちらでは割愛する。</p> <p>今回の実習で得たものは多く有る。1 つ目は野生動物の野外調査の大変さ、そして楽しさである。話でいくら聞いていても、細かい所は実際に行ってみないとわからないものである。例を挙げると、ノートとカメラと双眼鏡(いずれも調査の際手元に持っていたいもの)をどのように持ち運ぶか、などといったことは実際にフィールドに出ないと絶対分からなかった。また改めて、野生の動物たちは思いもよらない行動を見せてくれて、観察していてとても楽しかった。</p> <p>2 つ目は語学である。短い間ではあったが海外招聘者の方々と共に実習を行い、英語でコミュニケーションをとったことはとても良い経験であった。自分の拙い英語もこの実習中に上達したようである。</p> <p>3 つ目は友達である。この実習に参加していた人たちは皆それぞれ生まれた国も研究のバックグラウンドも色々で、話をしていて楽しかったし、参考になる事も多くあった。この実習で得られた一番の収穫はこの交友関係だと思う。</p> <p>最後に、この実習に携わられた全ての方に感謝申し上げます。ありがとうございました。</p>

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



木の上で休むサル



沢の清流



シカ



道路上でグルーミング



3匹の母親が集まってグルーミング



親子

6. その他 (特記事項など)